

様々な規模と形のデータを集めることで、人々が生きる実社会の姿を描こうとしています。このプロセスを通じて、社会理論の検証と発展を目指す「経験社会学・社会調査法」という分野が専門です。現在は特に、文章データを計量的に分析する方法に取り組んでいます。目で読んでいるだけでは気がつきにくいことが、計量的な分析、グラフ・マップの作製を通じて、まざまざと現われてくることがあります。

1. 専門演習の目標

社会における情報の流れと、それを形作る人々の日々のコミュニケーション。加えて、それを調べるための、社会調査の方法。こうしたトピックについての基礎的な知識と技術を身につけることが1つ目の目標です。

その上で自分なりの疑問や問題意識をもとに、身につけた調査の手法を活用して、社会状況を探る力を身につけることが、2つ目のより重要な目標です。実際にやってみることで、そして結果をゼミで発表して他の人の意見を聞きつつ、より良い試みを目指すことを通じて、こうした力を身につけることを目指します。

2. 専門演習で扱う課題と内容

新聞記事やインターネット上のコミュニケーションを対象とした調査・分析を、少なくとも1度は行います。例えば、新聞紙面で「責任」といった特定の用語がいかに扱われているのか、その扱われ方はこの20年の間にいかに変化してきたのかを調査することで、社会の変化を垣間見ることができるともかもしれません。あるいは、インターネット上で行われている議論を収集して、新聞の論調と比べてみても良いでしょう。

こうした調査・分析を1度は行った上で、次に、より自由なテーマでのデータ収集と分析に取り組んでもらいます。もちろん、引き続き新聞紙面やネットに注目しても良いでしょうし、国会の議事録やヒットソングの歌詞などを分析対象にしても良いでしょう。これらのデータ収集と分析にもとづいて、卒業論文の作製を目指します。

なお以上の過程では、同時に、文章データを計量的に分析する方法を身につけることを目指します。ときとして、文章を目で読んでいるだけではなかなか気づきにくいのに、統計的な分析を行ってみると、まざまざと読み取れる事柄があります。そんな発見を、自ら体験してもらえればと考えています。

3. 授業の進め方・内容

3回生前期：テキストの講読を通じて、コミュニケーション論・電子メディア論についての基礎的な

知識を学びつつ、

3回生後期：新聞記事やインターネット上のコミュニケーションを対象として、いくぶん「例題」的な調査・分析を行い、計量的な内容分析の方法を学びます。

4回生前期：各自の問題意識にもとづくテーマ設定と、データ収集。

4回生後期：データ収集と分析。卒業論文の執筆に向けて、各自の調査・分析およびその結果の個別報告。

4. 必要とする知識

必要なことは皆でゼミの中で学んでいきますが、「計量社会学」を既に受講しているとなお理解がスムーズでしょう。それから、PCが嫌いでないことが望ましいでしょう。

5. 関連する分野・科目・知識

コミュニケーション論、経験社会学、社会調査法。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）
適宜指示します。

7. 独自に付加する選考方法

面接を行う場合があります。

8. 受講生に望むこと

ただ言われたことをするのではなく、「どんな調査・分析を自分でやってみたらおもしろいだろうか」と考えながら、参加してもらいたいと思います。そういう意味での積極性を望みます。そして「おもしろい」ことを見つけたら、それを卒論にしてもらえると、言うこと無しです。